

学会参加奨励金報告書

学籍番号：R23-087

名前：始田 若奈

学会名：第 65 回日本核医学学会 第 45 回日本核医学技術学会総会学術大会

開催場所：京都市勧業館 みやこめっせ

開催期間：11/13～11/15

発表セッション名：発表なし

発表形態：発表なし

発表日時：発表なし

1. 発表の概要

発表なし

2. 質疑応答内容 他

発表なし

3. 関連発表の内容

発表なし

4. 学会参加の感想

今回、核医学学会に学生として参加し、普段の講義や実習では得られない多くの刺激を受けた。特に印象的だったのは、福島第一原発事故からの復興についての発表である。当時自分はまだ幼く、事故そのものについて深く理解していなかったが、今回の発表を通して事故発生の経緯やその後の対応、地域住民がどのような思いで生活してきたのかを具体的に知ることができた。これまでニュースや教科書で得ていた知識は断片的であったが、実際のデータや現場での経験に基づく説明を聞くことで、より現実的で多角的な視点から復興の歩みを理解することができた。

特に、放射線量の長期的な変化、除染作業の進め方、そして被災地域の生活再建に向けた支援など、復興の過程が具体的に示されており、非常に印象深かった。事故から十年以上が経過し、外部からは復興が順調に進んでいるように見える一方で、現場では依然として科学的検証や社会的支援が必要な状況が続いていることを知り、その複雑さと粘り強い取り組みの重要性を強く感じた。将来放射線に関わる職に就く者として、この発表で得た知識は非常に大きな学びとなった。

また、研究者や臨床現場の医師・技師が互いに意見を交わし、より良い診断や治療を追求している姿を目の当たりにし、この分野に携わりたいという気持ちがさらに強まった。さらに、学生セッションでの発表は特に大きな刺激となった。学生も高度な研究に真剣に取り組み、その成果を堂々と発表していた。内容も、画像再構成の工夫や放射性医薬品の評価、装置性能の改善など、教科書では触れられない実践的なテーマばかりで、同

じ学生とは思えないほど高いレベルの研究が多かった。質疑応答でも学生同士が積極的に議論しており、研究に向き合う真剣さに大きな刺激を受けた。

学会全体を通して、核医学という分野が多くの特門家の連携によって発展していることを実感するとともに、自分が学んでいる内容が将来どのように医療に生かされるのかを具体的にイメージできるようになった。今回得た経験を今後の勉学に生かし、基礎知識の理解をさらに深めながら、自分自身も成長していけるよう努めていきたい。

5. 参加証明書・旅費領収書 (写メで OK)

6. 現地参加がわかる写真(4 枚)

